

北海道観光入込客数調査報告書

平成27年度

平成28年8月

北海道経済部観光局

北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

1 北海道観光入込客数調査について

本調査は、観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に準じて平成22年度に道が改正した「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、観光入込客数などを推計したものです。

2 調査内容

(1) 観光入込客数（実人数）

市町村が行う観光地点等入込客数調査、道が行う観光地点パラメータ調査及び観光庁が提供する宿泊観光入込客数などのデータなどにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

訪日外国人来道者数（実人数）については、日本政府観光局（JNTO）の訪日外客数や訪日外客訪問地調査などにより推計した北海道を訪れた外国人の実人数

(2) 観光入込客数（延べ人数）

各市町村の観光入込客数を集計した観光入込客数の延べ人数

延べ人数：市町村の実人数の単純合計

（1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。）

(3) 観光消費額単価

観光地点パラメータ調査により、道内客、道外客、外国人について、「観光」、「ビジネス兼観光」別に推計した観光消費額単価

3 利用上の留意事項

各数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。

I 観光入込客数（実人数）

1 概況

平成27年度の観光入込客数は、5,477万人となりました。

景気の緩やかな回復により観光需要が堅調に推移したことに加え、5月のゴールデンウィークや9月のシルバーウィークがともに5連休となったほか、記録的な大雨や暴風雪に見舞われた前年度に比べて天候に恵まれたことに加え、3月末の道東道白糠インターチェンジへの延伸や国内外の新規航空路線就航により交通アクセスが向上し、道の駅など新たな観光施設が営業を開始したことなどから、昨年度の5,377万人を超え過去最高を更新しました。

2 道内客・道外客・外国人別

道内客・道外客・外国人別にみると、道内客は4,693万人、道外客は577万人、外国人が208万人となり、構成比では、道内客が85.7%、道外客が10.5%、外国人が3.8%となっています。

3 日帰り客・宿泊客別

日帰り客・宿泊客別にみると、日帰り客は3,700万人、宿泊客は1,778万人となり、構成比では、日帰り客が67.5%、宿泊客が32.5%となっています。

4 四半期別

四半期別にみると、第1四半期が1,513万人（構成比27.6%、前年度比1.2%増）、第2四半期が2,090万人（同38.2%、同1.8%増）、第3四半期が878万人（同16.0%、同1.9%増）、第4四半期が996万人（同18.2%、同3.0%増）となっています。

<平成27年度 観光入込客数(実人数)>

区分	日帰り客	宿泊客	計	前年度比	構成比	
第1四半期 (4～6月)	道内客	1,103万人	243万人	1,346万人	+0.4%	89.0%
	道外客	1万人	128万人	129万人	+0.8%	8.5%
	外国人	—	38万人	38万人	+51.1%	2.5%
	合計	1,104万人	409万人	1,513万人	+1.2%	100.0%
第2四半期 (7～9月)	道内客	1,546万人	283万人	1,829万人	+1.2%	87.5%
	道外客	8万人	201万人	209万人	+1.5%	10.0%
	外国人	—	52万人	52万人	+30.2%	2.5%
	合計	1,554万人	536万人	2,090万人	+1.8%	100.0%
第3四半期 (10～12月)	道内客	468万人	244万人	712万人	+0.6%	81.1%
	道外客	2万人	120万人	122万人	+1.7%	13.9%
	外国人	—	44万人	44万人	+33.5%	5.0%
	合計	470万人	408万人	878万人	+1.9%	100.0%
第4四半期 (1～3月)	道内客	570万人	236万人	806万人	+1.1%	80.9%
	道外客	2万人	115万人	117万人	+2.6%	11.7%
	外国人	—	73万人	73万人	+31.9%	7.3%
	合計	572万人	425万人	996万人	+3.0%	100.0%
合計	道内客	3,687万人	1,006万人	4,693万人	+0.8%	85.7%
	道外客	13万人	564万人	577万人	+1.4%	10.5%
	外国人	—	208万人	208万人	+35.0%	3.8%
	合計	3,700万人	1,778万人	5,477万人	+1.9%	100.0%

5 訪日外国人来道者数（実人数）

(1) 概況

平成27年度の訪日外国人来道者数は、国際定期便の新規就航や増便、査証要件の緩和、円安基調の継続、各種プロモーションによる需要喚起などから前年度に比べて35.0%増加し、208万人となり、過去最高を更新しました。

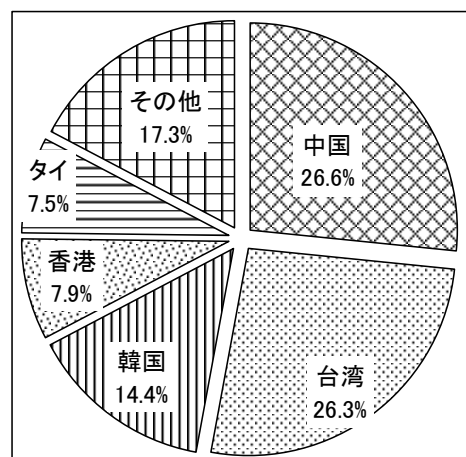
なお、これは日本全体の平成27年度訪日外国人旅行者2,136万人の約1割（9.7%）となっています。

(2) 国・地域別

本道観光の主要市場であるアジア地域からの来道者は184万8,000人で、前年度に比べて36.6%の増加となりました。

国・地域別で見ると、中国が55万4,300人（前年度比63.0%増）と最も多く、次いで、台湾が54万7,800人（同15.9%増）、韓国が29万9,500人（同48.9%増）、香港が16万5,100人（同37.4%増）、タイが15万5,200人（同21.0%増）、となっています。

来道者数の多い主要な国・地域別の特徴は次のとおりです。



中国	国際定期便の新規就航や増便が相次ぎ、5月の桜・芝桜は「自慢できるスポット」としてステイタスが高まっており、特に人気集中していることや、7月のラベンダー、冬の雪などが大変好評なことなどから、前年度比63%増となり、訪日外国人来道者数として初めて、国・地域別のトップとなりました。
台湾	定期便が増便となったことや、ラベンダーや芝桜などの花見目的だけでなく紅葉鑑賞の人気が高まっていること、また、年末年始や旧正月休暇の日の並びが良かったことなどから、前年度比約16%増となりました。
韓国	LCCの新規就航や増便、夏の涼しいリゾート地としての北海道人気の定着や、光復節50周年に伴い急遽設定された3連休なども追い風となり、前年度比約49%増となりました。
香港	4月はイースター休暇と清明節が重なったことから大型連休となり、第1四半期は前年度比75%増となりました。通年でも新千歳空港への定期便就航や、紅葉時期のチャーター便の運航があったことなどから、前年度比約37%増となりました。
タイ	LCC及びチャーター便の就航、4月及び5月に長期休暇があったことなどから、通年で訪日旅行機会が拡大しました。また、韓国におけるMERSやヨーロッパでのテロ事件の影響による日本への旅行振替需要の拡大などから、前年度比21%増となりました。

<平成27年度訪日外国人来道者数(実人数)>

(単位:人)

区	分	中国	台湾	韓国	香港	タイ	マレーシア	シンガポール	小計
第1四半期 (4~6月)	27年度	110,200	101,600	51,200	35,000	28,000	14,400	9,400	349,800
	26年度	39,800	89,100	35,300	20,000	23,200	13,400	8,500	229,300
	前年同期比	+176.9%	+14.0%	+45.0%	+75.0%	+20.7%	+7.5%	+10.6%	+52.6%
第2四半期 (7~9月)	27年度	108,400	158,900	90,700	47,100	42,400	18,800	17,200	483,500
	26年度	63,500	132,900	65,400	36,600	37,700	17,200	13,000	366,300
	前年同期比	+70.7%	+19.6%	+38.7%	+28.7%	+12.5%	+9.3%	+32.3%	+32.0%
第3四半期 (10~12月)	27年度	93,000	144,900	59,300	48,800	20,700	19,300	16,700	402,700
	26年度	60,700	124,300	39,300	32,700	17,200	7,600	14,300	296,100
	前年同期比	+53.2%	+16.6%	+50.9%	+49.2%	+20.3%	+153.9%	+16.8%	+36.0%
第4四半期 (1~3月)	27年度	242,700	142,400	98,300	34,200	64,100	23,800	6,500	612,000
	26年度	176,000	126,400	61,100	30,900	50,200	11,100	5,100	460,800
	前年同期比	+37.9%	+12.7%	+60.9%	+10.7%	+27.7%	+114.4%	+27.5%	+32.8%
合 計	27年度	554,300	547,800	299,500	165,100	155,200	76,300	49,800	1,848,000
	26年度	340,000	472,700	201,100	120,200	128,300	49,300	40,900	1,352,500
	前年同期比	+63.0%	+15.9%	+48.9%	+37.4%	+21.0%	+54.8%	+21.8%	+36.6%

区	分	米国	オーストラリア	カナダ	ロシア	その他	合計
第1四半期 (4~6月)	27年度	6,000	5,000	2,300	2,600	16,700	382,400
	26年度	4,900	4,100	1,900	3,200	9,700	253,100
	前年同期比	+22.4%	+22.0%	+21.1%	△18.8%	+72.2%	+51.1%
第2四半期 (7~9月)	27年度	9,800	4,300	3,800	3,400	17,000	521,800
	26年度	8,900	2,900	3,300	4,600	14,900	400,900
	前年同期比	+10.1%	+48.3%	+15.2%	△26.1%	+14.1%	+30.2%
第3四半期 (10~12月)	27年度	6,500	4,600	3,300	1,900	24,600	443,600
	26年度	5,600	4,300	3,000	2,300	20,900	332,200
	前年同期比	+16.1%	+7.0%	+10.0%	△17.4%	+17.7%	+33.5%
第4四半期 (1~3月)	27年度	30,400	32,600	6,700	2,300	48,200	732,200
	26年度	22,400	27,400	5,500	2,700	36,300	555,100
	前年同期比	+35.7%	+19.0%	+21.8%	△14.8%	+32.8%	+31.9%
合 計	27年度	52,700	46,500	16,100	10,200	106,500	2,080,000
	26年度	41,800	38,700	13,700	12,800	81,800	1,541,300
	前年同期比	+26.1%	+20.2%	+17.5%	△20.3%	+30.2%	+35.0%

※参考 観光庁の訪日外国人消費動向調査の都道府県別訪問率の国籍・地域別にインドネシア、フィリピン、イギリスなどが加えられたことから、参考値として試算したところ、「その他」106,500人のうち、インドネシアが18,200人、フィリピンが10,000人、イギリスが10,500人となっており、今後精度を高め、国・地域別の区分への登載に向け検討していきます。

Ⅱ 観光入込客数（延べ人数）

1 総数

平成27年度の全道179市町村における観光入込客数（実数）を合計した総数（延べ人数）は、1億4,082万人で、前年度に比べて5.6%の増加となりました。

また、宿泊客延べ数の合計は、3,471万人泊で、前年度に比べて5.9%の増加となりました。

2 圏域別

圏域別の観光入込客数（延べ人数）を見ると、6圏域とも前年度に比べ増加しており、釧路・根室圏7.5%、道央圏6.6%、オホーツク圏4.8%、十勝圏4.3%、道北圏3.8%、道南圏2.9%の増加となりました。

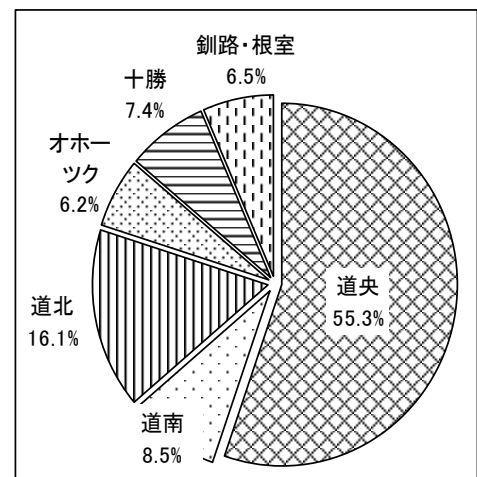
また、宿泊客延べ数では、十勝圏域を除く5圏域が前年度に比べ増加しました。

なお、各圏域の特徴は次のとおりです。

道央圏	道の駅など観光施設のオープンやリニューアルに加え、前年度放映された余市町を舞台にした連続テレビドラマによる集客効果が持続したほか、大雨による国道の通行止めが発生した昨年と比べて天候に恵まれ、冬のイベントも集客が伸びたことなどから増加しました。
道南圏	8月にオープンした函館アリーナで人気ロックグループのコンサートや大会が開催されたことや、姥神大神宮渡御祭（江差町）が天候に恵まれたことに加え、北海道新幹線が開業したことなどから増加しました。
道北圏	5月から10月まで「北海道ガーデンショー2015大雪」（上川町、旭川市など）が開催され、6月に「フラノマルシェ2」（富良野市）がオープンしたほか、大雨による土砂崩れが起きた昨年と比べて天候に恵まれ、冬には霧氷テラス（占冠村）がオープンしたことなどから増加しました。
オホーツク圏	8月にオホーツク流氷館（網走市）の新館がオープンしたほか、前年度悪天候に見舞われた港まつり（紋別市）など夏のイベントが好天に恵まれ、冬も荒天の影響が少なかったことなどから増加しました。
十勝圏	前年度に帯広市で開催された国際農業機械展のような大規模な大会は減ったものの、3月の道東道浦幌・白糠間の開通による交通アクセス向上に加え、新得町のリゾート施設が夏期営業を再開したことなどから入込客数が増加しました。
釧路・根室圏	3月の道東道浦幌・白糠間の開通による交通アクセスの向上に加え、知床世界自然遺産登録10周年記念事業が展開されたほか、イベントや道の駅の集客が好調だったことや、冬の野鳥観光の根強い人気などから増加しました。

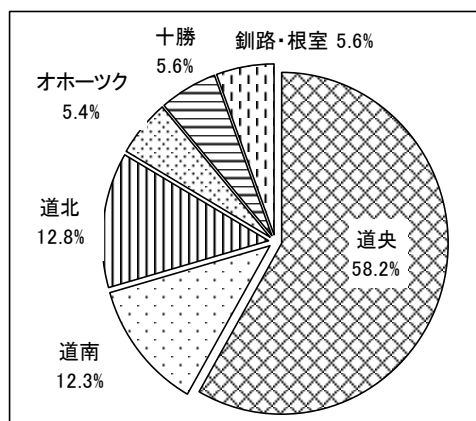
<圏域別観光入込客数(延べ人数)>

圏域	観光入込客数	前年度比	増減数	構成比
道央	7,793万人	+6.5%	+478万人	55.3%
道南	1,195万人	+2.9%	+33万人	8.5%
道北	2,269万人	+3.8%	+84万人	16.1%
オホーツク	872万人	+4.8%	+40万人	6.2%
十勝	1,036万人	+4.3%	+43万人	7.4%
釧路・根室	918万人	+7.5%	+64万人	6.5%
合計	14,082万人	+5.6%	+741万人	100.0%



〈圏域別宿泊客延べ数〉

圏域	宿泊客延べ数	前年度比	増減数	構成比
道央	2,021万人泊	+7.5%	+142万人泊	58.2%
道南	427万人泊	+4.6%	+19万人泊	12.3%
道北	445万人泊	+5.4%	+23万人泊	12.8%
オホーツク	187万人泊	+3.5%	+6万人泊	5.4%
十勝	196万人泊	△1.2%	△2万人泊	5.6%
釧路・根室	195万人泊	+2.6%	+5万人泊	5.6%
全道	3,471万人泊	+5.9%	+192万人泊	100.0%



3 市町村別

観光入込客数（実人数）を市町村別で見ると、札幌市が1,365万人（前年度比1.8%増）で最も多く、次いで、小樽市795万人（同6.7%増）、旭川市553万人（同3.4%増）、以下、千歳市、函館市、釧路市、登別市の順となっています。

一方、宿泊客延べ数で見ると、札幌市が1,213万人泊（前年度比9.3%増）で最も多く、次いで、函館市379万人泊（同5.0%増）、釧路市138万人泊（同6.7%増）、以下、登別市、倶知安町、帯広市、小樽市の順となっています。

〈観光入込客数(実人数)の多い市町村〉

順位	市町村名	入込客数	前年度比
1	札幌市	1,365万人	+1.8%
2	小樽市	795万人	+6.7%
3	旭川市	553万人	+3.4%
4	千歳市	510万人	+9.0%
5	函館市	495万人	+2.2%
6	釧路市	426万人	+8.6%
7	登別市	391万人	+10.7%
8	洞爺湖町	301万人	+7.8%
9	喜茂別町	276万人	+4.8%
10	帯広市	270万人	+5.0%
11	壮瞥町	238万人	+35.2%
12	上川町	212万人	+3.1%
13	石狩市	207万人	+13.9%
14	七飯町	192万人	△1.7%
15	富良野市	188万人	+9.2%
16	苫小牧市	188万人	+0.9%
17	伊達市	182万人	+2.9%
18	白老町	181万人	+1.3%
19	美瑛町	170万人	△5.2%
20	二セコ町	169万人	+6.3%

〈宿泊客延べ数の多い市町村〉

順位	市町村名	宿泊客延べ数	前年度比
1	札幌市	1,213万人泊	+9.3%
2	函館市	379万人泊	+5.0%
3	釧路市	138万人泊	+6.7%
4	登別市	128万人泊	+5.8%
5	倶知安町	101万人泊	+4.9%
6	帯広市	98万人泊	△4.5%
7	小樽市	82万人泊	+5.2%
8	旭川市	81万人泊	+8.5%
9	富良野市	76万人泊	+7.7%
10	上川町	72万人泊	+0.6%
11	北見市	70万人泊	△0.7%
12	洞爺湖町	69万人泊	+9.2%
13	二セコ町	65万人泊	+6.6%
14	網走市	47万人泊	+4.0%
15	斜里町	46万人泊	+10.1%
16	占冠村	44万人泊	+16.5%
17	音更町	43万人泊	△1.8%
18	留寿都村	41万人泊	+2.4%
19	稚内市	37万人泊	△2.4%
20	壮瞥町	36万人泊	+10.4%

4 訪日外国人来道者の宿泊延べ数

(1) 国・地域別

平成27年度の訪日外国人来道者の宿泊延べ数は、616万1千人泊で、前年度に比べて31.1%の増加となりました。

国・地域別に見ると、台湾が167万6千人泊で全体の27.2%を占め最も多く、次いで中国が151万6千人泊で24.6%、香港が69万2千人泊で11.2%、韓国が64万2千人泊で10.4%、タイが36万7千人泊で5.9%、以下シンガポール、オーストラリアなどの順となっています。

(2) 圏域別

圏域別に見ると、道央圏が447万人泊と全道の72.6%を占め最も多く、次いで道北圏、道南圏、十勝圏、釧路・根室圏、オホーツク圏の順となっています。

前年度と比較すると、十勝圏の前年度比47.7%増をはじめ、6圏域とも増加し、全道では31.1%の増加となりました。

〈圏域別訪日外国人来道者宿泊延べ数〉

(単位:人泊)

圏域	ア ジ ア										
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	インド	インドネシア	フィリピン	ベトナム
道央	1,117,902	575,121	989,056	523,368	214,123	147,190	300,030	3,158	37,852	23,278	3,459
道南	121,630	24,738	253,656	15,240	13,735	10,661	12,711	240	4,740	543	141
道北	191,700	30,094	249,613	81,014	37,963	15,673	43,597	183	5,458	2,690	502
オホーツク	19,556	4,407	38,258	26,663	10,843	3,286	4,587	111	453	181	105
十勝	26,305	4,334	65,877	28,888	15,378	5,268	2,987	96	1,268	83	18
釧路・根室	38,753	3,368	79,476	17,037	8,988	4,238	2,625	130	488	295	153
全道	1,515,846	642,062	1,675,936	692,210	301,030	186,316	366,537	3,918	50,259	27,070	4,378
前年度比	+69.0%	+49.1%	+10.4%	+23.4%	+20.4%	+54.5%	+21.5%	+20.3%	+32.4%	+117.5%	+66.4%
構成比	24.6%	10.4%	27.2%	11.2%	4.9%	3.0%	5.9%	0.1%	0.8%	0.4%	0.1%

圏域	ヨーロッパ				北 米		オーストラリア	その他	計	26年度	前年度比
	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	アメリカ	カナダ					
道央	12,277	23,792	7,599	7,678	89,031	16,338	221,386	161,706	4,474,344	3,430,673	+30.4%
道南	194	731	475	277	5,430	1,505	1,890	9,566	478,103	387,117	+23.5%
道北	2,377	2,115	1,819	1,343	9,440	1,725	24,868	34,702	736,876	539,817	+36.5%
オホーツク	141	618	680	682	2,539	232	1,170	4,728	119,240	96,805	+23.2%
十勝	19	355	380	197	2,556	156	13,181	17,592	184,938	125,229	+47.7%
釧路・根室	1,183	982	719	583	3,525	283	1,428	3,606	167,860	121,387	+38.3%
全道	16,191	28,593	11,672	10,760	112,521	20,239	263,923	231,900	6,161,361	4,701,028	+31.1%
前年度比	△29.1%	+28.0%	+18.8%	+27.1%	+26.6%	+19.4%	+18.1%	+34.4%	+31.1%		
構成比	0.3%	0.5%	0.2%	0.2%	1.8%	0.3%	4.3%	3.8%	100.0%		

(3) 市町村別

市町村別に見ると、札幌市が243万9千人泊（前年度比35.1%増）で最も多く、次いで登別市が47万1千人泊（同26.3%増）、函館市41万8千人泊（同15.0%増）、倶知安町39万1千人泊（同34.0%増）、洞爺湖町26万1千人泊（同35.9%増）となっています。

【宿泊延べ数の多い上位5カ国・地域】

順位	国名	宿泊延べ数	前年度比
1	台湾	1,675,936人泊	+10.4%
2	中国	1,515,846人泊	+69.0%
3	香港	692,210人泊	+23.4%
4	韓国	642,062人泊	+49.1%
5	タイ	366,537人泊	+21.5%

【宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	2,438,803人泊	+35.1%
2	登別市	470,502人泊	+26.3%
3	函館市	418,213人泊	+15.0%
4	倶知安町	391,149人泊	+34.0%
5	洞爺湖町	261,234人泊	+35.9%

【中国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	707,501人泊	+74.7%
2	函館市	91,021人泊	+65.1%
3	登別市	79,769人泊	+59.1%
4	洞爺湖町	78,019人泊	+60.9%
5	旭川市	63,506人泊	+130.0%

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	330,274人泊	+56.6%
2	登別市	75,784人泊	+35.2%
3	壮瞥町	37,583人泊	+74.2%
4	洞爺湖町	30,026人泊	+63.6%
5	留寿都村	27,068人泊	+33.7%

【台湾の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	531,952人泊	+8.3%
2	函館市	234,072人泊	+0.7%
3	登別市	202,358人泊	+17.3%
4	上川町	138,864人泊	△0.3%
5	洞爺湖町	87,795人泊	+9.4%

【香港の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	289,978人泊	+20.0%
2	倶知安町	77,758人泊	+55.7%
3	登別市	43,962人泊	+25.7%
4	ニセコ町	34,569人泊	+16.2%
5	富良野市	21,643人泊	+44.0%

【シンガポールの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	96,873人泊	+19.1%
2	倶知安町	42,652人泊	+52.8%
3	登別市	14,505人泊	△10.1%
4	ニセコ町	13,085人泊	+12.1%
5	函館市	12,852人泊	+8.4%

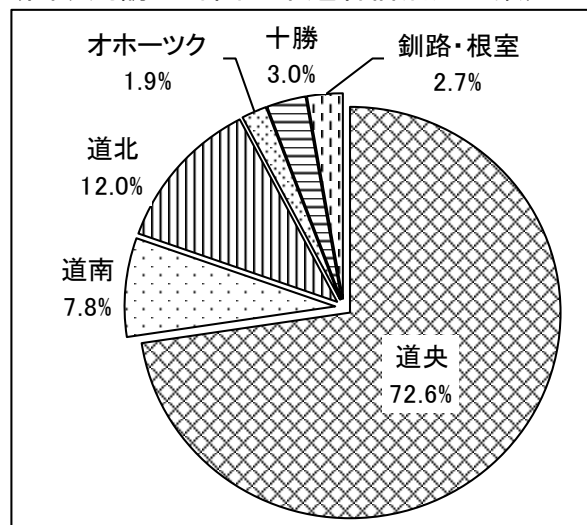
【タイの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	192,635人泊	+34.0%
2	上川町	22,277人泊	+0.6%
3	洞爺湖町	16,579人泊	+59.8%
4	小樽市	16,296人泊	+28.1%
5	登別市	14,733人泊	△15.6%

【オーストラリアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	倶知安町	152,227人泊	+26.8%
2	札幌市	23,040人泊	+12.6%
3	ニセコ町	20,031人泊	△9.5%
4	富良野市	14,777人泊	△0.1%
5	留寿都村	13,402人泊	△22.1%

〈圏域別訪日外国人来道者宿泊延べ数〉



Ⅲ 観光消費額単価

道内13の観光地点において実施したパラメータ調査により得られた観光消費額単価は、下表のとおりとなっています。

＜平成27年度 観光消費額単価＞

(単位:円)

区 分		日帰り	宿泊	
第1 四半期 (4~6月)	道内客	観光	4,286 (4,172)	22,541 (21,938)
		ビジネス兼観光	3,592 (5,269)	16,636 (14,608)
	道外客	観光	9,800 (9,600)	77,033 (75,431)
		ビジネス兼観光	6,281 (5,490)	24,476 (27,340)
	外国人	観光	14,141 (14,698)	151,491 (121,243)
		ビジネス兼観光	8,140 (8,703)	120,566 (45,506)
第2 四半期 (7~9月)	道内客	観光	3,472 (3,352)	26,147 (25,307)
		ビジネス兼観光	3,891 (5,184)	20,353 (15,008)
	道外客	観光	24,345 (23,606)	87,191 (84,474)
		ビジネス兼観光	5,857 (5,198)	24,222 (24,353)
	外国人	観光	9,511 (14,291)	150,498 (128,234)
		ビジネス兼観光	7,368 (7,406)	81,111 (56,536)
第3 四半期 (10~12月)	道内客	観光	4,163 (4,089)	23,083 (22,797)
		ビジネス兼観光	3,079 (3,757)	18,312 (15,210)
	道外客	観光	21,000 (20,843)	68,769 (67,436)
		ビジネス兼観光	4,900 (5,286)	24,462 (25,878)
	外国人	観光	8,763 (16,465)	150,537 (149,013)
		ビジネス兼観光	11,579 (8,940)	38,690 (58,901)
第4 四半期 (1~3月)	道内客	観光	3,074 (2,970)	22,071 (21,770)
		ビジネス兼観光	5,075 (3,508)	18,165 (24,218)
	道外客	観光	24,100 (23,700)	76,484 (75,957)
		ビジネス兼観光	5,455 (6,453)	24,493 (25,075)
	外国人	観光	8,921 (11,894)	141,670 (150,761)
		ビジネス兼観光	10,102 (16,177)	86,743 (92,482)

※ () 内の数値は、前年度の単価です。

「観光消費額単価」は、道内13の観光地点で実施したパラメータ調査により得られたサンプルから算出しています。

なお、H23年度から、外国人の「観光」については、上記の道内13の観光地点に加え、新千歳空港において実施した調査により算出していますが、「ビジネス兼観光」はサンプルが少ないため、観光庁から提供された単価を掲載しています。

また、H24年度第4四半期からは、道内客、道外客、外国人客とも、「ビジネス兼観光」は観光庁から単価が提供されることとなったため、その値を掲載しています。

北海道観光入込客数調査報告書 [平成27年度]

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.htm>

平成28年8月

北海道経済部観光局観光戦略グループ

札幌市中央区北3条西6丁目

電話番号（代表）011-231-4111 内線 26-564

（直通）011-204-5303

FAX番号（直通）011-232-4120
